



新刊書水滸

十
五
尾

~13
3942
14



門へ13
號 3942
卷 814

新編 日本書紀

八

あ

見度

し

新編 日本書紀 卷之十五

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

茶磯榮



修東抄作の長由事と御事
陰皇の風系古事と事の中事

ワケ 陰皇御事 佐別 ねむと
あまの宮事 ちか
はるの月 ちか
あまの宮事 ちか
あまの宮事 ちか
あまの宮事 ちか

○

ざり新らうとつるふち留流堂のむす
びるぬしとて言ふらまぢんか
すく糸そとを降がら新らうむす
とゆのともたうてそあしとん
あうごさすさうゆわあしの
の糸そとを降がら新らうむす
新らうむすの糸そとを降がら
あうごさすさうゆわあしの

今の通もあつひもあつひもあつひも
むすやちまむすはむすはむすはむす
ひし川の流しに流るるむすはむす
むすはむすはむすはむすはむす
あうごさすさうゆわあしの
あうごさすさうゆわあしの
あうごさすさうゆわあしの
あうごさすさうゆわあしの

草子も〜〜のりやのぐらぬあり
あつゝの事いひぬま事いひぬ寝る中
うけまぐらう〜右つゝの首をうけ
上様田子のいひも田代はあは
らやあは〜〜はまぶつたうあさ
まよ津地なまの明も〜〜と
あ〜〜の明とあ〜〜のつれとあは
雑々 活吉あ〜〜もあ〜〜あ

草子も〜〜のりやのぐらぬあり
あつゝの事いひぬま事いひぬ寝る中
うけまぐらう〜〜はまぶつたうあさ
まよ津地なまの明も〜〜と
あ〜〜の明とあ〜〜のつれとあは
雑々 活吉あ〜〜もあ〜〜あ

身を道と志とをばまよとて物心は
まよとてゆげと自らおのれに
声とゆげと打撃の法を
兄とまよと一りもや性母のちぢり
而後とてこそして人おのれに
志の足るは今いふもよめが
平きうとゆとまよとて
志の足るは今いふもよめが

物心は道と志とをばまよとて
まよとてゆげと自らおのれに
声とゆげと打撃の法を
兄とまよと一りもや性母のちぢり
而後とてこそして人おのれに
志の足るは今いふもよめが
平きうとゆとまよとて
志の足るは今いふもよめが

とらけが掃くもあれてのうらぐま
ほろまきうらびまらうら 前うら
おしきで田所もうらん外あひく行月
とらうらーまびくあをえんむきもまき
おまきまき切あまうらまきとて満えん
あま月まきうらあまきとてまきまらう
まきまらうあまきまらうあまきまらう
まらうまらうまらうまらう

まらうのあまきまらう
まらうのまらう

まらうのまらう
まらうのまらう

まらうのまらう
まらうのまらう
まらうのまらう
まらうのまらう
まらうのまらう
まらうのまらう
まらうのまらう
まらうのまらう

つと後身と守りおしりし
のほごりんの世よりふまらふき父母
我父つがきし徳を息しりしとて
ひより弟のよきとてうらなふ事
故より自れうよとていふ
んごより斗うそと徳に海とて
後身首とて徳とて徳とて
水うらていそとて又より

の西原さるさる
のほごりんの世よりふまらふき父母
我父つがきし徳を息しりしとて
ひより弟のよきとてうらなふ事
故より自れうよとていふ
んごより斗うそと徳に海とて
後身首とて徳とて徳とて
水うらていそとて又より

せん

ふーと海を渡る中をきく礼
しとあふふと海をくく一門もきよき
千村 伊名も海沿ぐ旅文 秋の気配り
ゆてこもあふふとささるく一門もきよき
げまらんささるく一門もきよき
先ささるく一門もきよき
あふふと海をくく一門もきよき
ゆてこもあふふとささるく一門もきよき

そのゆきさる白海沿ぐ一門の海沿ぐ
伊名も海沿ぐ一門の海沿ぐ
ゆてこもあふふとささるく一門もきよき
あふふと海をくく一門もきよき
ゆてこもあふふとささるく一門もきよき
あふふと海をくく一門もきよき
ゆてこもあふふとささるく一門もきよき
あふふと海をくく一門もきよき

